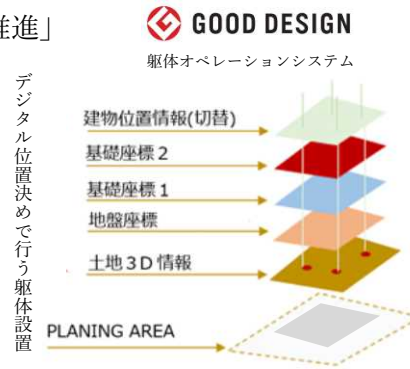


弊社のデジタル技術の活用及び DX の推進の取組みについて

1 事業コンセプト

「住宅の躯体領域のデジタル施工と建物 DX 推進」

- ① 土地の 3D 測量と土地情報共有
- ② 地盤補強打設位置のデジタル位置決め
- ③ 基礎型枠設置位置のデジタル位置決め
- ④ デジタル基礎検査 1・2
- ⑤ デジタル骨組検査
- ⑥ 5 段階で完結するデジタル位置決め



2 事業方針

- ① 躯体領域のデジタル施工の完成度向上と、施工の基準化。
- ② ①を含め、建築会社向けに建物全体の施工基準（施工要領書）の提供をベースとした 5つの検査で構成する、デジタル施工報告スキームを提供。
- ③ 「施主」「建築会社」で必要な、効率的情報連携をサポート。

3. 建物 DX 事業戦略

① 役務の高度化	「躯体オペレーション」システムで位置決めのデジタル化※1を推進 https://kutaiooperation.jp
② 施工基準の明示	基礎+建物全体の「デジタル施工要領書」の提供
③ 施工情報の共有	IT ツール構築による施工情報スキームの提供
④ 施工結果の明示	IT ツール構築による施工結果情報スキームの提供

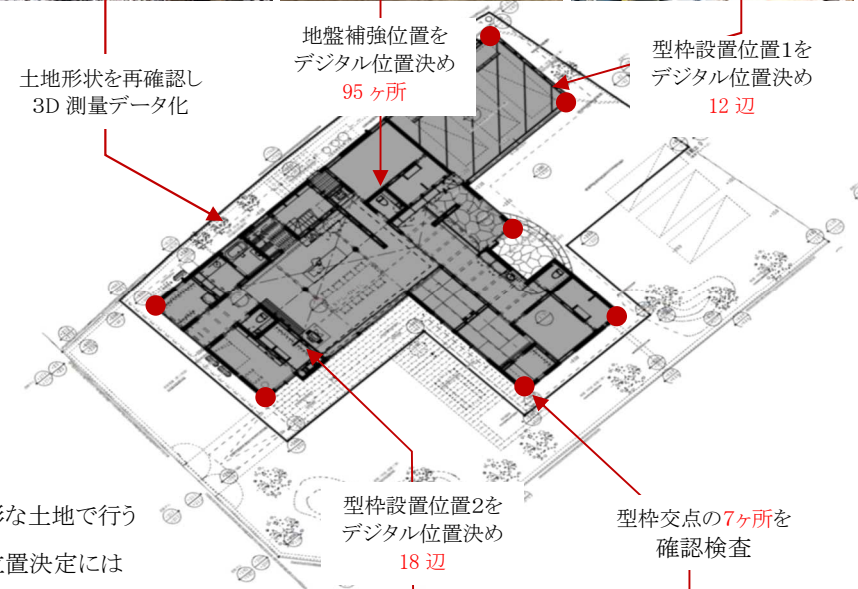
※1 位置決めのデジタル化は躯体施工の工業化に繋がります

4. その他の取組み

躯体領域で行う 4 段階で構成する基礎施行をパッケージ化した、住宅基礎の商品化によりデジタル施工率の向上を図り、これまで未整備であった施主が「家を建てた後」にフォーカスした、建物情報提供サービスの確立を含めて建物設置・維持管理領域をターゲットとした建物 DX の推進を進めます。

5. 躯体オペレーション対応事例（不整形地）

- ① 土地の 3D 測量 ② 地盤補強工事 D 位置決め ③ 基礎型枠 D 位置決め 1



不整形な土地で行う建物位置決定には多くの時間が必要になる上、建物配置がズレた場合の施工リスクが内在します。躯体のデジタル施工を弊社が行う場合には、位置決め上の困難性が低く、すべてのケースで施工リスクは限りなく低くなり、施工報告もデジタル化されます。



- ④ 基礎型枠 D 位置決め 2 ⑤ デジタル基礎検査

公募設置等計画の概要

1 事業コンセプト

『まちの浜 HUB Park つながりバー』

- ① ひと と 人 の つながりバー
- ② まち と 賑わいの つながりバー
- ③ れきしぶんか と 未来 の つながりバー
- ④ はなみどり と 季節 の つながりバー
- ⑤ みず と 風景 の つながりバー



2 施設の主な配置方針

- ① 南北に長いスケールメリットを活かし、視線が通りやすい施設配置及び開放的な景観の再生により、かつて広がっていた『天王川』の雄大な景観を現代に再現する。
- ② 公園中央部に施設を集めて配置することにより、中央で生まれた賑わいを『天王川』を上ったり下ったりするがごとく、公園全体に波及させる。

3 主な整備内容

種別	機能・整備内容等	
①スターバックスコーヒー	座席数：約 60 席(室内：約 40 席、テラス席：約 20 席)	
②芝生広場	(A)水辺の広場：約 4,300 ㎡、(B)藤の広場：約 2,370 ㎡	
③サービスセンター	公園利用者の受付窓口、授乳室、展示・PR スペース等	
④公園管理事務所	作業員詰所	
⑤ 駐 車 場	(A)第1駐車場	45→83 台拡張、自動開閉式ゲート、観光バス乗降場所
	(B)第2駐車場	51 台現状維持、自動開閉式ゲート
	(C)第3駐車場	29→103 台拡張、自動開閉式ゲート
	(D)中地駐車場	27→66 台拡張
	(E)瑠璃小路駐車場	18 台現状維持
※ 1	合計	170→321 台拡張(151 台増)
⑥駐輪スペース	自転車 48 台、バイク 31 台	
⑦花の植栽※ 2	(A)藤棚東側：シバザクラ等、(B)丸池周辺等：ヒガンバナ等	

※ 1：平時は無料

※ 2：市民参加による植栽も計画

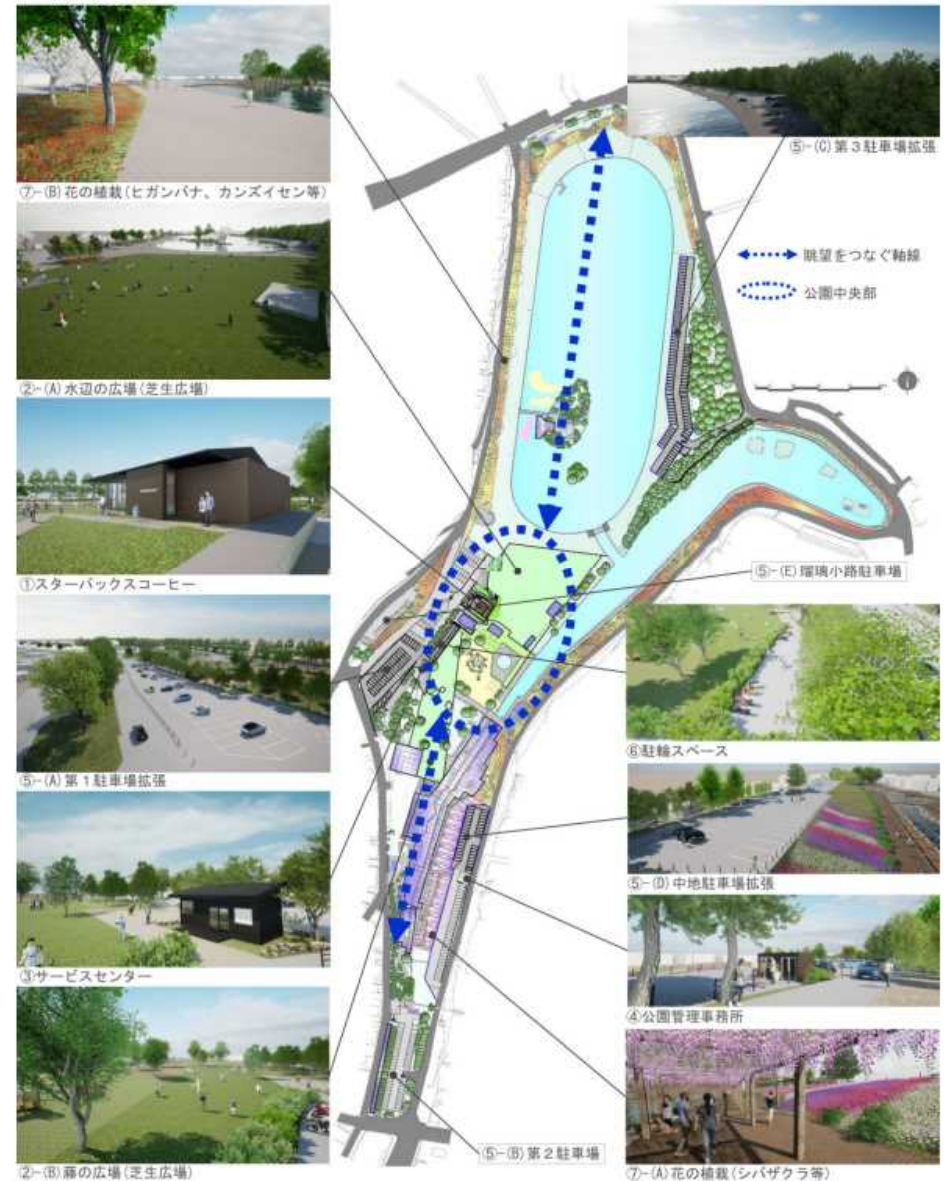
4 その他取組

マルシェや健康づくり等のイベントの定期開催、天王通りや本町筋への藤の鉢植え配置など

5 スケジュール

- 令和 4 年 7 月～9 月頃：現地測量、地質調査、設計、建築確認申請等
- 令和 4 年 10 月頃～令和 5 年 3 月：工事
- 令和 5 年 4 月 1 日(土)：指定管理者による公園全体の管理運営開始
- 令和 5 年 4 月頃：スターバックスコーヒー開店(予定)

6 施設配置図



※現地測量、地質調査等の結果により、施設規模や配置、スケジュール等が変更になる場合があります。